

一燈国際特許事務所

東京都千代田区麹町1-4半蔵門ファーストビル1F
TEL.03-3515-7060 FAX.03-3515-7061
http://www.itto-pat.jp

対談

所長・弁理士

橘 和之 × 萩原 流行

インタビュー

[俳優]



INTERVIEW
KAZUYUKI TACHIBANA × NAGARE HAGIWARA

特許は独自商品を創造する突破口。技術の原石を共に育てるお手伝いを



橘 企業または個人の発明や商標、意匠などを知的財産権として保護するためには特許庁に登録する必要がありますが、私どもも含めてほとんどの特許事務所はその法的手続きをご本人に成り代わって代理するという仕事をこなしています。

萩原 国際特許事務所ということですが、海外との手続きもされているのですか。

橘 はい。実は知的財産の登録はそれぞれの国で別々に行なわなければなりません。日本だけでなく、アメリカやヨーロッパなど海外でもその権利を守りたい場合にはそれぞれの国に対して手続きを行なう必要がありますので、日本から海外へ、また反対に海外から日本への出願手続きも行なっています。

萩原 クライアントとしてはやはり企業が多いのでしょうか。

橘 そうですね。しかし非常に珍しいケースだと思っておりますが、私どもは其中でも中小企業やベンチャー企業に特化している点が最大の特徴です。ほとんどの特許事務所は大企業をメインの顧客として持っております。なぜならば大企業では年間に何百件、何千件という特許を出願しますから、一度繋がりを持てば定期的に依頼を頂くことができますからです。また、会社の規模が大きければ社内に知財部があり、弁理士が所属していますので特許事務所ではあらかじめ内容を整理されたものを引き受け、端的に手続きを代行するという効率的な仕事ができます。一方、中小企業やベンチャー企業ではそもそも特許自体をご存じないところもありまして、知的財産権については全

くの素人のため、こちらが主導しないと前に進めないのです。ですから私どもは外部の人間でありながら、企業様の知財部のような立場で発明を一緒になって創造したり整理したりすることから始め、それができたら出願の書類作成に入ることになりまして。時間も労力も掛かりますが、企業様と一緒に創り上げていく面白さがありますのでやり甲斐を感じますし、そこにこそ私どもの存在意義を打ち出していきたいと思っております。

萩原 所長の性格にも合っているようですね。ところで、日本での特許出願量は世界的に見てどのような位置付けなのですか。

橘 年間約四十万件と出願件数は世界でもトップクラスで、良く知られているところでは「青色発光ダイオード」など世界的に誇れる優れた技術も数多く生み出しています。しかし日本の企業のうち約九十パーセントは中小企業と言われる中、非常に優れた技術を持ちながら特許という意識を持っていないことがたり、認識はしているものの知識がないことや時間的余裕がないことから取り組んでいない企業が多く、埋もれている技術が多いのが実情です。

萩原 スペースシャトルにも搭載されるような優れた部品を小さな町工場で製造しているという話を聞いて驚いたことがあります。日本にはそのような素晴らしい技術が数多くあるのでしょうか。

橘 おっしゃる通りです。しかしそのように優れた技術であっても、特許がなかったために他社に真似されてしまったというケースがよくあります。逆に「うちには特許

が取れるような技術はない」と嘆く経営者も多いのですが、そのような方はプラスαとして特許の概念を加えることで技術の伸びしろが大きく広がるといふことに気付いておられないことが多いようです。技術があるから特許を取るといふのは普通の考え方ですが、技術を伸ばすために特許を経営戦略に組み入れるという考え方もあります。「オリジナリティのあるものしか特許として認めない」と法律で定められていますから、特許を意識することは必然的に他社との差別化や新たな付加価値を追求する考え方に結び付き、会社の発展へと繋がるのです。開所してから約十年間、多くの中小企業様とお話をさせて頂きましたが、とにかく物を作ることに一生懸命で、宝を生むチャンスを逃し、せっかくなんだ宝も埋もれさせているということを実感していますし、この現状を打開していくことが私どもの最大の課題であると痛感しています。

萩原 御所が日本の産業の滞りに突破口を与えられることが期待されますが、最後に今後の展望をお聞かせ下さい。

橘 私にはこれ以上のもはないと思えるほどこの仕事は天職だと感じますし、そう言えることを幸せに思います。今後も変わらずに中小企業を一番のお客様とし、まずは特許に対する意識改革を行ない、企業様と一緒に埋もれた素晴らしい技術を掘り起こすことに加え、原石を見出して磨きをかけてより付加価値の高いものに仕上げていくお手伝いをしていきたいですね。

萩原 日本を支える中小企業の心強い味方ですね。大いなる活躍を期待しています。